

2. 入学前・入学後教育に関する管理栄養士養成大学の実態調査

研究分担者 今井 絵理 滋賀県立大学人間文化学部
研究代表者 小切間美保 同志社女子大学生生活科学部
研究協力者 小林 香穂 同志社女子大学生生活科学研究科

研究要旨

本研究では、管理栄養士養成大学における入学前・入学後教育、特に理科の科目に関する教育に着目し、その実態を明らかにすることを目的として、Web システムを用いた質問調査を実施した。管理栄養士養成大学 143 大学に調査を依頼し、86 大学から回答が得られた(回答率 60.1%)。結果、入学前教育、入学後教育の両方を実施している大学は約 7 割にのぼり、特に入学後教育の実施率が高かった。入学前・入学後教育については、教員の 6~7 割が負担を感じている一方で、その必要性を認識する大学は約 7~8 割に達しており、基礎学力向上に不可欠であると認識していることが窺えた。また、専門基礎分野(①社会・環境と健康、②人体の構造と機能および疾病の成り立ち、③食べ物と健康)の理解度や学力向上と、入学前・入学後教育の関連を分析した。その結果、入学前・入学後の両方の教育を実施している大学では、いずれか一方のみを実施している大学と比べて、「理解度・学力向上のために入学前・入学後教育を実施してよかったですか」という質問に対し、「やや思う」または「思う」と回答した割合が高かった。入学前・入学後の体系的な教育が、基礎学力の向上に寄与する可能性や専門基礎分野の学力向上につながる可能性が示唆された。本分担研究者等が知る限り、本研究により、管理栄養士養成大学における、入学前・入学後教育の理科の教育の実態が初めて明らかとなった。本研究の成果が管理栄養士養成大学における基礎学力向上に向けた検討の基礎資料として活用されることが期待される。今後は、入学前・入学後教育に係る内容の検討や教育効果の検証を進め、より質の高い教育体系の構築を目指すことが求められる。

A. 背景と目的

少子化の影響で大学は全入時代に突入し、学生の学力低下が問題になっている¹⁾。また、入試制度の多様化により、高校卒業時点で十分に基礎学力を高められていない状況で大学へ進学できるようになったことが、社会的背景として挙げられる。特に、学力試験を

課さない選抜方式により早期に進学先が決定した入学予定者に関しては、進学決定後の学習習慣の喪失や学力の低下が懸念されている。このような状況は管理栄養士養成大学においても例外ではなく、学生の学力低下が指摘されてきている。管理栄養士養成大学では、国家試験の合格が絶対条件と

なる。さらに、卒業後には管理栄養士としての業務遂行能力に加え、最新の栄養学の知識を習得し、その進展に柔軟に対応できる力が求められる。

学力低下が懸念されている昨今において、学生の基礎学力を向上させる必要性が高まっている。基礎学力向上の手段としては、入学前教育、入学後教育がある。実際に、約7割の大学において、入学前教育が導入されているとの報告がある²⁾。また、全国の大学を対象に実施された入学前教育、プレースメントテスト、リメディアル教育の実施状況に関する調査報告によれば、これら3つのうちいずれかを実施していると回答した大学は約90%にのぼり、そのうち約40%の大学が入学前教育、プレースメントテスト、リメディアル教育のすべてを実施していた³⁾。このほか、理系大学における入学前教育、入学後教育、プレースメントテストに関する研究は、医療系・看護系大学⁴⁻⁶⁾を中心に報告されている。

管理栄養士養成大学においても栄養学の基礎となる化学や生物などの「理科」に関する基本的な学力が不可欠である。これらの知識が不足していると、管理栄養士養成教育の基盤となる専門基礎分野について十分に理解できず、専門分野の理解にも影響が生じると考えられる。従って、学生の基礎学力を高める観点から、入学前教育や入学後教育が必要となる。しかしながら、これまでに管理栄養士養成大学における入学前・入学後の教育、特に理科の科目の教育の実態について調査した報告は見当たらない。

そこで、本研究では、全国の管理栄養士養成大学を対象に、理科の科目を中心とした入学前・入学後教育に関する実態や、理科の科目の十分な理解が必要となる専門基

礎分野の教育に関する実態などを明らかにすることを目的に、Web システムによる調査を行った。

B. 方法

B-1. 調査対象

2024年4月現在、日本の管理栄養士養成施設151校のうち、専門学校6校と募集停止を決定した2大学を除いた143大学とした。

B-2. 調査方法

2024年11月8日に各大学施設長および学科長へ依頼状(資料1、資料2)、全国栄養士養成施設協会の協力依頼文書、厚生労働省健康・生活衛生局健康課栄養指導室の協力依頼文書と調査項目の一覧表(資料3)、Web 回答用 URL と QR コードおよび大学毎の回答用の「ログイン ID」と回答にあたっての留意事項の書類を郵送し、Web システム上で回答を得た。各大学の学科長等、質問項目の回答が可能な教員に回答を依頼した。12月5日にデータを回収した後、回答期限の延長を記載した再案内を郵送し、12月23日に最終データを回収、集計した。調査票の Web システムの設計およびデータ回収は株式会社 M に委託した。

B-3. 設問数と設問内容

資料3に示す通り、設問数は47問であった。このうち、入試に関する設問が5問、入学前教育に関する設問が16問、入学後教育に関する設問が14問、入学前・入学後教育と基礎専門分野との連携に関する設問が3問、プレースメントテストに関する設問が3問、進路状況に関する設問が3問、その他

が3問であった。

B-4. 倫理的配慮

調査の説明文書には、調査の趣旨、調査方法、情報管理の方法、自由意思による回答について説明し、対象者からの調査の回答をもって調査協力への同意を得た。回答者は、それぞれの質問内容入力の際に「ログイン ID」を入力して回答を行った。調査項目に固有名詞の記載事項はなく、個人が推定されるような質問項目は含めなかった。大学名と ID の対応表はデジタル化せず手書き文書とし、研究代表者が施錠して保管した。

本調査研究は、同志社女子大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会(承認番号 2024-15)により2024年8月29日承認(2024年11月6日一部変更届承認)を得て実施された。

C. 結果

C-1. 対象大学

調査依頼は管理栄養士養成を行っている143大学(国公立23校、私立120校)に対して実施し、86大学から回答が得られ、回答率は60.1%(86校/143校)であった。回答のあった86大学のうち、国公立は16校(19%)、私立は70校(81%)であった。

C-2. アドミッションポリシーと理科の入試科目の実態(表1)

表1に示すように、アドミッションポリシーとして化学、生物を重視している大学はそれぞれ67.4%、65.1%であり、理科以外では数学24.4%、英語27.9%、国語27.9%、という回答結果であった。一方、「科目は示していない」と回答した大学は31.4%であった。

C-3. 基礎学力向上のための理科の入学前・入学後教育の実施状況(表2)

基礎学力向上のための理科の入学前・入学後教育の実施状況を表2にまとめた。「なし」(入学前・入学後教育のどちらも実施していない)4.7%、「入学前教育のみ」4.7%、「入学後教育のみ」20.9%、「入学前・入学後教育の両方」69.8%であり、約7割の大学が入学前・入学後教育の両方を実施していた。表には示していないが、入学前教育を行っている大学は約7割、入学後教育を行っている大学は約9割にのぼり、入学後教育の方が実施率が高い傾向にあった。国公立・私立別では、「なし」は国公立25.0%、私立0%、「入学前・入学後教育両方」は国公立18.8%、私立81.4%であり、私立で入学前・入学後教育を両方実施している割合が高かった。

C-4. 進路状況(表3)

表3に、2024年3月卒業生の進路の状況について示した。各大学に割合(%)で回答を求めたため、表3に人数の記載はせず、中央値で示した。管理栄養士の専門性を活かした就職者の中央値は76.0%で私立の方が国公立より高かった。就職先では、医療・福祉が33.0%で国公立、私立共に高かった。

C-5. 基礎学力向上のための理科の入学前教育の実施状況(表4-1~表4-3)

C-5-1. 理科の入学前教育の実施と理由

表4-1に理科の入学前教育の実施状況を示した。理科の入学前教育を実施している大学は74.4%であった。入学前教育を実施

している理由は、「高等学校までの基礎学力の補完」85.9%、「大学での専門教育の導入準備」82.8%、「入学までの学習習慣の維持」75.0%であった。一方、入学前教育を実施していない理由は、「実施する期間が十分にとれない」40.9%、「担当する教員が足りない」36.4%、「実施する必要がない」22.7%であった。実施している大学の規模(収容定員数)は、学生数 4,000 人未満の大学が 68.8%と最も多く、次に 4,000～8,000 人未満、8,000 人以上の順であった。また、今後、理科の入学前教育は必要であるかという設問には、72.1%が「思う」、16.3%が「やや思う」と回答していた。国公立、私立別の結果は、それぞれ表 4-2 および表 4-3 に示す通りである。

C-5-2. 入学前教育の実施主体と実施者

表 4-1 に示すように、入学前教育の実施主体は、「大学全体として実施」39.1%、「学部として実施」9.4%、「学科として実施」46.9%で、学科として実施または大学全体として実施が高い割合であった。実施者は、常勤教員 59.4%、外部委託 50.0%、その他 10.9%で、半数の大学が外部委託を行っていた。教員への負担の程度は、「ある」18.8%、「ややある」40.6%であった。「あまりない」は 25.0%、「ない」は 15.6%であった。

実施科目は化学基礎 85.9%、生物基礎 81.3%と高い割合を示した。また、化学 42.2%、生物 40.6%といずれも 4 割を占めていた。

C-5-3. 入学前教育の実施期間と実施方法

表 4-1 に示すように、実施期間は、1～3 か月以内が 71.9%、次いで 3～6 か月以内が 25.0%であった。1 か月以内は 3.1%(2 大学)

であった。使用教材は、紙媒体の教材 67.2%、デジタル教材 59.4%であった。表には示していないが、入学前教育を外部委託している大学では、そうでない大学と比較してデジタル教材の使用割合が高かった。

指導方法では、郵便物や電子メールでの指導が 60.9%と高い割合を示した。直接指導は 28.1%であり、「自主学習を促す通知のみ」と回答した大学は 31.3%であった。

入学前教育の実施期間中に学習内容の進捗状況を確認する仕組みについて、67.2%が「ある」と回答した。また、終了時点の知識の定着具合を確認する仕組みについては、59.4%が「ある」と回答しており、いずれも半数以上が確認する仕組みを持っていた。

C-6. 基礎学力向上のための理科の入学後教育の実施状況(表 5-1～5-3)

C-6-1. 理科の入学後教育の実施と理由

表 5-1 に入学後教育の実施状況を示した。化学に関する入学後教育の実施状況では、47.7%が必修科目として実施していた。選択必修科目、または選択科目として実施している大学は合わせて 33.7%であり、必修科目と合わせると全体の 81.4%を占めていた。一方、「実施していない」「自主学習を促す指導のみ実施している」大学は、それぞれ 9.3%、3.5%であった。

生物に関する入学後教育の実施状況では、33.7%が必修科目としており、化学(47.7%)より低値であった。選択必修科目、または選択科目として実施している大学は合わせて 41.8%であり、必修科目と合わせると全体の 75.5%であった。一方、「実施していない」「自主学習を促す指導のみ実施している」大

学は、それぞれ 15.1%、5.8%で、化学(それぞれ 9.3%、3.5%)よりやや高値であった。

理科の入学後教育を実施している 77 大学の実施理由は、「大学での専門教育の導入準備」89.6%、「高等学校までの基礎学力の補完」72.7%であった。「実施していない」と回答した 9 大学の実施していない理由(複数回答可)では、「時間に余裕がない」、「担当する教員が足りない」、「実施する必要がない」の順であった。また、今後、理科の入学前教育は必要であるかという設問には、76.7%が「思う」、16.3%が「やや思う」と回答していた。国公立、私立別の結果は、それぞれ表 5-2 および表 5-3 に示す通りである。

C-6-2. 入学後教育の実施主体と実施者

表 5-1 に示す通り、入学後教育の実施主体は、「大学全体として実施」15.6%、「学部として実施」16.9%、「学科として実施」64.9%で、学科として実施している大学が多数であった。実施者は、常勤教員 85.7%、非常勤教員 29.9%、外部委託 3.9%、その他 3.9%で、ほとんどの大学が常勤教員により行っていた。教員への負担の程度は、「ある」32.5%、「ややある」40.3%であり、7 割以上が負担に感じており、入学前(「ある」18.8%、「ややある」40.6%)と比べその割合が高かった。

C-6-3. 入学後教育の実施期間と実施方法

表 5-1 に示す通り、実施期間は 3~6 か月以内が 67.5%と最も高く、次いで 1~3 か月以内が 16.9%であった。6 か月以上の大学は 13.0%(10 大学)であった。使用教材は、紙媒体の教材 80.5%と最も高く、デジタル教材 15.6%であった。入学前教育(59.4%)と

比べ、入学後教育ではデジタル教材の使用割合が低かった。成果の確認方法は「定期試験」と回答した大学が 79.2%と高い割合を示した一方で、「実施していない」と回答した大学が 3.9%あった。

担当者間の連携(管理栄養士養成課程の専門教育と入学後教育)について尋ねた。内容は学生の理解度の評価、実施方法の改善についての意見交換などである。「ほとんど行わない」35.1%と「年 3 回以上」33.8%がいずれも 3 割以上であった。次いで「年 1 回」22.1%、「年 2 回」9.1%であった。

C-7. 入学前・入学後教育実施と専門基礎分野の理解度・学力向上との関連(表 6,表 7,図 1)

表 6 に、入学前・入学後教育を実施することによる専門基礎分野の理解度・学力向上に関する質問に係る回答状況について示した。専門基礎分野は、①社会・環境と健康、②人体の構造と機能および疾病の成り立ち、③食べ物と健康の 3 分野とし、分野毎に「理解度・学力向上のために入学前・入学後教育を実施してよかったですか」との問いについて、「思う」「やや思う」「あまり思わない」

「思わない」「わからない」から分野別に回答を得た。その結果、社会・環境と健康では「思う」19.4%、「やや思う」28.4%、人体の構造と機能及び疾病の成り立ちでは「思う」54.3%、「やや思う」25.7%、食べ物と健康では「思う」49.3%、「やや思う」29.0%であり、人体の構造と機能及び疾病の成り立ちと食べ物と健康で「思う」の割合が約 5 割と高かった。一方で「思わない」と回答した割合も一定の割合で存在しており、社会・環境と健康で 10.4%と他

の2分野と比べて割合が高かった。

さらに、表7および図1には、「入学前教育のみ」「入学後教育のみ」「入学前・入学後教育の両方」の3パターンに分けて、専門基礎分野の理解度・学力向上との関連を示した。入学前・入学後教育の両方を実施している大学では、「入学前教育のみ」または「入学後教育のみ」を実施している大学と比較して、専門基礎分野の理解度を「思う～やや思う」と回答した割合が高かった。

C-8. プレースメントテスト実施状況(表8-1～表8-3)

表8-1に、プレースメントテスト実施状況について示した。プレースメントテストを「実施していない」大学は45.3%であり、約5割がプレースメントテストを実施していた。実施科目は化学基礎、化学、生物基礎、生物の順に高く、生物よりも化学でその割合が高かった。

プレースメントテストを実施している理由は、「学力を測るため」が70.2%と最も高く、次いで「クラス分けをするため」と「履修指導に活用するため」で約4割であった。プレースメントテストを実施していない理由について、「実施する必要がない」と回答した割合は48.7%と、約半数にのぼった。一方で、「時間割に余裕がない」(38.5%)や「担当する教員が足りない」(30.8%)といった運営上の課題を理由に挙げた大学もあった。国公立、私立別の結果は、それぞれ表8-2および表8-3に示す通りである。

D. 考察

冒頭でも述べたように、大学全入時代を迎えた現代において、多くの大学では入学

者の学力低下が深刻な課題となっている。この傾向は特に理科の基礎学力が求められる専門職の養成課程を持つ大学で特に顕著であり、管理栄養士養成課程を設置する大学でも同様の課題が指摘されている。管理栄養士は、食と健康に関する専門的な知識を持ち、栄養管理や食事指導を通じて人々の健康を支える重要な役割を担っている。したがって、高度な専門知識と実践力が求められる専門職であるため、基礎学力の低下は資格取得率の低下を招くだけでなく、将来的な業務遂行能力にも悪影響をおよぼす可能性がある。

このような背景を踏まえ、本研究では全国の管理栄養士養成課程を設置する大学を対象に、入学前および入学後の教育に関する実態を明らかにすることを目的とし、Webシステムを用いた調査を実施した。具体的には、各大学における入学前・入学後教育の実施状況やそれに伴う教員の負担、さらには教育の必要性に対する認識について調査を行った。

調査の結果、入学前および入学後の両方の教育を実施している大学は全体の約7割にのぼった。個別に見ると、入学前教育を実施している大学は約7割、入学後教育を実施している大学は約9割に達し、入学後教育の実施率の方が高い傾向が見られた。さらに、入学前・入学後教育の実施による常勤教員の負担についての質問では、「負担がある」と回答した大学は入学前教育では約6割、入学後教育では約7割に達していた。しかし、その一方で、今後も入学前・入学後教育が必要であると考える大学は約7～8割にのぼり、多くの教員が負担を感じつつも、基礎学力向上のためにはこうした教育が不可

欠であると認識していることが分かった。

次に、管理栄養士の専門基礎分野である「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」の理解度・学力向上と、入学前・入学後教育との関連について分析を行った。調査の結果、入学前・入学後教育を両方実施している大学では、入学前のみ、あるいは入学後のみを実施している大学と比較して、学生の理解度・学力向上の観点から教育を実施して良かったと感じている割合が高かった。このことから、入学前・入学後の両段階において体系的な教育を行うことが、学生の基礎学力の向上に寄与し、専門基礎分野に対する理解を深める可能性が示唆された。

本研究では、本研究分担者等が知る限り、管理栄養士養成課程を持つ大学における入学前および入学後の教育、特に理科教育の実態を初めて明らかにした。本研究の成果が、今後、管理栄養士を目指す学生の基礎学力向上を目的とした基礎学力向上に向けた検討を進める上での基礎資料として活用されることを期待する。さらに、本研究を通じて得られた知見をもとに、各大学が独自の取組を発展させ、より効果的な教育プログラムを構築するための参考資料となることが望まれる。将来的には、入学前・入学後教育の具体的な内容の検討や、教育効果の検証を進めることで、さらに質の高い教育体系の構築に寄与することが求められる。

E. 結論

本研究は、管理栄養士養成課程を持つ大学を対象に、入学前・入学後教育の実態を調査し、Web システムを用いて分析を行った。結果、約 7 割の大学が両教育を実施し、特

に入学後教育の実施率が高かった。教員の負担はあるものの、多くの大学が入学前・入学後教育の必要性を認識していた。専門基礎分野の学力向上にも寄与する可能性が示唆され、今後の管理栄養士養成に係る基礎学力向上に向けた検討の基礎資料となることが期待される。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

H. 参考文献

- 1) ベネッセ教育総合研究所: 高大接続に関する調査, 2014_koudai_all.pdf (2025年3月21日)
- 2) 松本美奈: 広がりを見せる入学前教育. リメディアル教育研究. 4, 4-7, 2009
- 3) 穂屋下茂, 小野博, 米満潔, 竹内芳衛: 全国の大学対象のアンケート実施とその結果. リメディアル教育研究. 7, 3-16, 2012
- 4) 岡田弥生, 廣井直樹, 佐藤二美: 医療系分野におけるリメディアル教育の必

要性, およびその問題点. リメディアル
教育研究. 11, 85-88, 2016

- 5) 増田元香, 渋谷寛美, 今井亮, 山下明
美, 宮本さとみ, 横田 素美:看護系大
学のリメディアル教育の現状と今後の
課題. 文京学院大学保健医療技術学
部紀要. 11, 1-6, 2018
- 6) 富樫 千秋, 市原, 真穂, 吉野 由美子,
岩瀬 靖子, 原 美弥子, 池邊 敏子:全
国看護系大学を対象とした初年次教育
の実態. 千葉科学大学紀要. 12, 223-
230; 2019

表1 アドミッションポリシーと理科の入試科目

| 項目 | 全体 (n = 86) | | 国公立 (n = 16) | | 私立 (n = 70) | |
|---|-------------|--------|--------------|--------|-------------|--------|
| | n | (%) | n | (%) | n | (%) |
| アドミッションポリシーとして、重要視している科目 (複数回答) | | | | | | |
| 化学 | 58 | (67.4) | 10 | (62.5) | 48 | (68.6) |
| 生物 | 56 | (65.1) | 8 | (50.0) | 48 | (68.6) |
| 数学 | 21 | (24.4) | 3 | (18.8) | 18 | (25.7) |
| 英語 | 24 | (27.9) | 6 | (37.5) | 18 | (25.7) |
| 国語 | 24 | (27.9) | 1 | (6.3) | 23 | (32.9) |
| その他 | 4 | (4.7) | 1 | (6.3) | 3 | (4.3) |
| 科目は示していない | 27 | (31.4) | 6 | (37.5) | 21 | (30.0) |
| 一般 (前期) 入試において、化学 (化学基礎を含む) を試験科目としていますか | 8 | (9.3) | 5 | (31.3) | 3 | (4.3) |
| 化学の試験範囲についてお答えください | 78 | (90.7) | 11 | (68.8) | 67 | (95.7) |
| 必須科目としている | 38 | (44.2) | 2 | (12.5) | 36 | (51.4) |
| 選択科目としている | 48 | (55.8) | 14 | (87.5) | 34 | (48.6) |
| 化学 (化学基礎を含む) | | | | | | |
| 一般 (前期) 入試において、生物 (生物基礎を含む) を試験科目としていますか | 4 | (4.7) | 1 | (6.3) | 3 | (4.3) |
| 生物の試験範囲についてお答えください* | 79 | (91.9) | 12 | (75.0) | 67 | (95.7) |
| 必須科目としている | 3 | (3.5) | 3 | (18.8) | 0 | (0.0) |
| 試験科目としていない | 35 | (42.2) | 2 | (15.4) | 33 | (47.1) |
| 生物基礎まで | 48 | (57.8) | 11 | (84.6) | 37 | (52.9) |
| 生物 (生物基礎を含む) | | | | | | |

* 「一般 (前期) 入試において、生物 (生物基礎を含む) を試験科目としていますか」の項目で「試験科目としていない」の国公立3大学を除く回答

表 2 入学前・入学後教育実施の有無

| カテゴリー | 全体 ($n = 86$) | | 国公立 ($n = 16$) | | 私立 ($n = 70$) | |
|-------------|-----------------|--------|------------------|--------|-----------------|--------|
| | n | (%) | n | (%) | n | (%) |
| なし | 4 | (4.7) | 4 | (25.0) | 0 | (0.0) |
| 入学前教育のみ | 4 | (4.7) | 0 | (0.0) | 4 | (5.7) |
| 入学後教育のみ | 18 | (20.9) | 9 | (56.3) | 9 | (12.9) |
| 入学前・入学後教育両方 | 60 | (69.8) | 3 | (18.8) | 57 | (81.4) |

表3 2024年3月卒業生の進路状況

| 項目 | カテゴリー | 全体 (n=85*) | | 国公立 (n=16) | | 私立 (n=69) | |
|---------------------------------|---------------------------|------------|--------------|------------|--------------|-----------|--------------|
| | | 中央値 | (25%, 75%) | 中央値 | (25%, 75%) | 中央値 | (25%, 75%) |
| 卒業生のうち、管理栄養士の専門性を活かした就職者の割合 (%) | | 76.0 | (60.0, 86.5) | 57.0 | (47.0, 87.8) | 77.0 | (65.0, 86.0) |
| 管理栄養士の専門性を活かした就職先の内訳 (%) | | 33.0 | (27.5, 42.0) | 36.5 | (27.3, 45.3) | 33.0 | (27.5, 41.0) |
| | 医療・福祉 | 28.0 | (16.5, 40.0) | 14.5 | (4.5, 19.3) | 31.0 | (22.0, 41.5) |
| | 委託給食会社 | 18.0 | (10.0, 29.5) | 18.5 | (1.3, 35.8) | 17.0 | (10.0, 28.0) |
| | 企業 (食品・製菓関連、薬局・ドラッグストアなど) | 8.0 | (3.0, 12.5) | 17.0 | (10.0, 21.5) | 6.0 | (2.0, 10.0) |
| | 公務員 (行政・栄養教諭など)、教育・研究機関 | 1.0 | (0.0, 10.0) | 0.0 | (0.0, 13.8) | 2.0 | (0.0, 10.0) |
| | その他 | 2.0 | (0.0, 4.0) | 10.0 | (0.3, 21.8) | 2.0 | (0.0, 3.0) |
| 卒業生のうち、進学者 (大学院・専門学校など) の割合 (%) | | | | | | | |

* 回答があった86大学のうち、新設1大学を除く85大学

表 4-1 入学前教育の実施状況

| 項目 | n | 選択肢 | n | (%) |
|-------------------------------|----|----------------------|----|--------|
| 理科の入学前教育の実施有無 | 86 | 実施している | 64 | (74.4) |
| | | 実施していない | 22 | (25.6) |
| 実施している理由(複数回答) | 64 | 高等学校までの基礎学力の補完 | 55 | (85.9) |
| | | 大学での専門教育の導入準備 | 53 | (82.8) |
| | | 入学までの学習習慣の維持 | 48 | (75.0) |
| 実施していない理由(複数回答) | 22 | 実施する期間が十分にとれない | 9 | (40.9) |
| | | 担当する教員が足りない | 8 | (36.4) |
| | | 実施する必要がない | 5 | (22.7) |
| | | その他 | 8 | (36.4) |
| 実施大学の規模 | 64 | 8000人以上 | 6 | (9.4) |
| | | 4000~8000人未満 | 14 | (21.9) |
| | | 4000人未満 | 44 | (68.8) |
| 実施主体 | 64 | 大学全体として実施 | 25 | (39.1) |
| | | 学部として実施 | 6 | (9.4) |
| | | 学科として実施 | 30 | (46.9) |
| | | その他 | 3 | (4.7) |
| 実施者(複数回答) | 64 | 大学教員(常勤) | 38 | (59.4) |
| | | 外部委託 | 32 | (50.0) |
| | | その他 | 7 | (10.9) |
| 学科教員(常勤雇用)への負担の程度 | 64 | ある | 12 | (18.8) |
| | | ややある | 26 | (40.6) |
| | | あまりない | 16 | (25.0) |
| | | ない | 10 | (15.6) |
| 実施科目(複数回答) | 64 | 化学基礎 | 55 | (85.9) |
| | | 生物基礎 | 52 | (81.3) |
| | | 化学 | 27 | (42.2) |
| | | 生物 | 26 | (40.6) |
| | | その他 | 24 | (37.5) |
| 実施期間 | 64 | 1か月以内 | 2 | (3.1) |
| | | 1~3か月以内 | 46 | (71.9) |
| | | 3~6か月以内 | 16 | (25.0) |
| 教育媒体(複数回答) | 64 | 紙媒体の教材(印刷物、ドリルなど) | 43 | (67.2) |
| | | デジタル教材(DVD、eラーニングなど) | 38 | (59.4) |
| | | その他 | 2 | (3.1) |
| 指導方法(複数回答) | 64 | 郵便物や電子メールでの指導 | 39 | (60.9) |
| | | 自主学習を促す通知のみ | 20 | (31.3) |
| | | 直接指導(対面やオンライン) | 18 | (28.1) |
| | | その他 | 8 | (12.5) |
| 学習内容の進捗状況確認する仕組みの有無 | 64 | ある | 43 | (67.2) |
| | | ない | 21 | (32.8) |
| 入学前教育の終了時点の知識の定着具合を確認する仕組みの有無 | 64 | ある | 38 | (59.4) |
| | | ない | 26 | (40.6) |
| 理科の入学前教育は必要であると思うか | 86 | 思う | 62 | (72.1) |
| | | やや思う | 14 | (16.3) |
| | | あまり思わない | 8 | (9.3) |
| | | 思わない | 2 | (2.3) |

表 4-2 入学前教育の実施状況(国公立)

| 項目 | n | 選択肢 | n | (%) |
|-------------------------------|----|----------------------|----|---------|
| 理科の入学前教育の実施有無 | 16 | 実施している | 3 | (18.8) |
| | | 実施していない | 13 | (81.3) |
| 実施している理由(複数回答) | 3 | 高等学校までの基礎学力の補完 | 2 | (66.7) |
| | | 大学での専門教育の導入準備 | 3 | (100.0) |
| | | 入学までの学習習慣の維持 | 2 | (66.7) |
| 実施していない理由(複数回答) | 13 | 実施する期間が十分にとれない | 5 | (38.5) |
| | | 担当する教員が足りない | 2 | (15.4) |
| | | 実施する必要がない | 5 | (38.5) |
| | | その他 | 4 | (30.8) |
| 実施大学の規模 | 3 | 8000人以上 | 0 | (0.0) |
| | | 4000~8000人未満 | 0 | (0.0) |
| | | 4000人未満 | 3 | (100.0) |
| 実施主体 | 3 | 大学全体として実施 | 0 | (0.0) |
| | | 学部として実施 | 0 | (0.0) |
| | | 学科として実施 | 3 | (100.0) |
| | | その他 | 0 | (0.0) |
| 実施者(複数回答) | 3 | 大学教員(常勤) | 3 | (100.0) |
| | | 外部委託 | 0 | (0.0) |
| | | その他 | 0 | (0.0) |
| 学科教員(常勤雇用)への負担の程度 | 3 | ある | 1 | (33.3) |
| | | ややある | 1 | (33.3) |
| | | あまりない | 1 | (33.3) |
| | | ない | 0 | (0.0) |
| 実施科目(複数回答) | 3 | 化学基礎 | 3 | (100.0) |
| | | 生物基礎 | 3 | (100.0) |
| | | 化学 | 3 | (100.0) |
| | | 生物 | 3 | (100.0) |
| | | その他 | 1 | (33.3) |
| 実施期間 | 3 | 1か月以内 | 1 | (33.3) |
| | | 1~3か月以内 | 1 | (33.3) |
| | | 3~6か月以内 | 1 | (33.3) |
| 教育媒体(複数回答) | 3 | 紙媒体の教材(印刷物、ドリルなど) | 2 | (66.7) |
| | | デジタル教材(DVD、eラーニングなど) | 0 | (0.0) |
| | | その他 | 2 | (66.7) |
| 指導方法(複数回答) | 3 | 郵便物や電子メールでの指導 | 0 | (0.0) |
| | | 自主学習を促す通知のみ | 2 | (66.7) |
| | | 直接指導(対面やオンライン) | 1 | (33.3) |
| | | その他 | 1 | (33.3) |
| 学習内容の進捗状況確認する仕組みの有無 | 3 | ある | 0 | (0.0) |
| | | ない | 3 | (100.0) |
| 入学前教育の終了時点の知識の定着具合を確認する仕組みの有無 | 3 | ある | 0 | (0.0) |
| | | ない | 3 | (100.0) |
| 理科の入学前教育は必要であると思うか | 16 | 思う | 3 | (18.8) |
| | | やや思う | 5 | (31.3) |
| | | あまり思わない | 6 | (37.5) |
| | | 思わない | 2 | (12.5) |

表 4-3 入学前教育の実施状況(私立)

| 項目 | n | 選択肢 | n | (%) |
|-------------------------------|----|----------------------|----|--------|
| 理科の入学前教育の実施有無 | 70 | 実施している | 61 | (87.1) |
| | | 実施していない | 9 | (12.9) |
| 実施している理由(複数回答) | 61 | 高等学校までの基礎学力の補完 | 53 | (86.9) |
| | | 大学での専門教育の導入準備 | 50 | (82.0) |
| | | 入学までの学習習慣の維持 | 46 | (75.4) |
| 実施していない理由(複数回答) | 9 | 実施する期間が十分にとれない | 4 | (44.4) |
| | | 担当する教員が足りない | 6 | (66.7) |
| | | 実施する必要がある | 0 | (0.0) |
| | | その他 | 4 | (44.4) |
| 実施大学の規模 | 61 | 8000人以上 | 6 | (9.8) |
| | | 4000~8000人未満 | 14 | (23.0) |
| | | 4000人未満 | 41 | (67.2) |
| 実施主体 | 61 | 大学全体として実施 | 25 | (41.0) |
| | | 学部として実施 | 6 | (9.8) |
| | | 学科として実施 | 27 | (44.3) |
| | | その他 | 3 | (4.9) |
| 実施者(複数回答) | 61 | 大学教員(常勤) | 35 | (57.4) |
| | | 外部委託 | 32 | (52.5) |
| | | その他 | 7 | (11.5) |
| 学科教員(常勤雇用)への負担の程度 | 61 | ある | 11 | (18.0) |
| | | ややある | 25 | (41.0) |
| | | あまりない | 15 | (24.6) |
| | | ない | 10 | (16.4) |
| 実施科目(複数回答) | 61 | 化学基礎 | 52 | (85.3) |
| | | 生物基礎 | 49 | (80.3) |
| | | 化学 | 24 | (39.3) |
| | | 生物 | 23 | (37.7) |
| | | その他 | 23 | (37.7) |
| 実施期間 | 61 | 1か月以内 | 1 | (1.6) |
| | | 1~3か月以内 | 45 | (73.8) |
| | | 3~6か月以内 | 15 | (24.6) |
| 教育媒体(複数回答) | 61 | 紙媒体の教材(印刷物、ドリルなど) | 41 | (67.2) |
| | | デジタル教材(DVD、eラーニングなど) | 38 | (62.3) |
| | | その他 | 0 | (0.0) |
| 指導方法(複数回答) | 61 | 郵便物や電子メールでの指導 | 39 | (63.9) |
| | | 自主学習を促す通知のみ | 18 | (29.5) |
| | | 直接指導(対面やオンライン) | 17 | (27.9) |
| | | その他 | 7 | (11.5) |
| 学習内容の進捗状況確認する仕組みの有無 | 61 | ある | 43 | (70.5) |
| | | ない | 18 | (29.5) |
| 入学前教育の終了時点の知識の定着具合を確認する仕組みの有無 | 61 | ある | 38 | (62.3) |
| | | ない | 23 | (37.7) |
| 理科の入学前教育は必要であると思うか | 70 | 思う | 59 | (84.3) |
| | | やや思う | 9 | (12.9) |
| | | あまり思わない | 2 | (2.9) |
| | | 思わない | 0 | (0.0) |

表 5-1 入学後教育の実施状況

| 項目 | <i>n</i> | 選択肢 | <i>n</i> | (%) |
|--------------------|----------|----------------------|----------|--------|
| 化学の実施状況 | 86 | 必修科目として実施している | 41 | (47.7) |
| | | 選択必修科目として実施している | 11 | (12.8) |
| | | 選択科目として実施している | 18 | (20.9) |
| | | 補習として実施している | 5 | (5.8) |
| | | 自主学習を促す指導のみ実施している | 3 | (3.5) |
| | | 実施していない | 8 | (9.3) |
| 生物の実施状況 | 86 | 必修科目として実施している | 29 | (33.7) |
| | | 選択必修科目として実施している | 13 | (15.1) |
| | | 選択科目として実施している | 23 | (26.7) |
| | | 補習として実施している | 3 | (3.5) |
| | | 自主学習を促す指導のみ実施している | 5 | (5.8) |
| | | 実施していない | 13 | (15.1) |
| 実施している理由（複数回答） | 77 | 大学での専門教育の導入準備 | 69 | (89.6) |
| | | 高等学校までの基礎学力の補完 | 56 | (72.7) |
| | | その他 | 1 | (1.3) |
| 実施していない理由（複数回答） | 9 | 時間割に余裕がない | 5 | (55.6) |
| | | 担当する教員が足りない | 4 | (44.4) |
| | | 実施する必要がある | 3 | (33.3) |
| | | その他 | 1 | (11.1) |
| 実施主体 | 77 | 大学全体として実施 | 12 | (15.6) |
| | | 学部として実施 | 13 | (16.9) |
| | | 学科として実施 | 50 | (64.9) |
| | | その他 | 2 | (2.6) |
| 実施者（複数回答） | 77 | 大学教員（常勤） | 66 | (85.7) |
| | | 大学教員（非常勤） | 23 | (29.9) |
| | | 外部委託 | 3 | (3.9) |
| | | その他 | 3 | (3.9) |
| 学科教員（常勤雇用）への負担の程度 | 77 | ある | 25 | (32.5) |
| | | ややある | 31 | (40.3) |
| | | あまりない | 16 | (20.8) |
| | | ない | 5 | (6.5) |
| 実施期間 | 77 | 1か月以内 | 2 | (2.6) |
| | | 1～3か月以内 | 13 | (16.9) |
| | | 3～6か月以内 | 52 | (67.5) |
| | | 6か月以上 | 10 | (13.0) |
| 教育媒体（複数回答） | 77 | 紙媒体の教材（印刷物、ドリルなど） | 62 | (80.5) |
| | | デジタル教材（DVD、eラーニングなど） | 12 | (15.6) |
| | | その他 | 13 | (16.9) |
| 成果の確認方法（複数回答） | 77 | 定期試験 | 61 | (79.2) |
| | | 確認テスト | 24 | (31.2) |
| | | 課題提出（レポート等） | 16 | (20.8) |
| | | その他 | 2 | (2.6) |
| | | 実施していない | 3 | (3.9) |
| 担当者間の連携 | 77 | 年1回 | 17 | (22.1) |
| | | 年2回 | 7 | (9.1) |
| | | 年3回以上 | 26 | (33.8) |
| | | ほとんど行わない | 27 | (35.1) |
| 理科の入学後教育は必要であると思うか | 86 | 思う | 66 | (76.7) |
| | | やや思う | 14 | (16.3) |
| | | あまり思わない | 4 | (4.7) |
| | | 思わない | 2 | (2.3) |

表 5-2 入学後教育の実施状況(国公立)

| 項目 | n | 選択肢 | n | (%) |
|--------------------|----|----------------------|----|---------|
| 化学の実施状況 | 16 | 必修科目として実施している | 3 | (18.8) |
| | | 選択必修科目として実施している | 3 | (18.8) |
| | | 選択科目として実施している | 4 | (25.0) |
| | | 補習として実施している | 0 | (0.0) |
| | | 自主学習を促す指導のみ実施している | 2 | (12.5) |
| | | 実施していない | 4 | (25.0) |
| 生物の実施状況 | 16 | 必修科目として実施している | 2 | (12.5) |
| | | 選択必修科目として実施している | 2 | (12.5) |
| | | 選択科目として実施している | 5 | (31.3) |
| | | 補習として実施している | 0 | (0.0) |
| | | 自主学習を促す指導のみ実施している | 2 | (12.5) |
| | | 実施していない | 5 | (31.3) |
| 実施している理由(複数回答) | 12 | 大学での専門教育の導入準備 | 9 | (75.0) |
| | | 高等学校までの基礎学力の補完 | 7 | (58.3) |
| | | その他 | 1 | (8.3) |
| 実施していない理由(複数回答) | 4 | 時間割に余裕がない | 2 | (50.0) |
| | | 担当する教員が足りない | 1 | (25.0) |
| | | 実施する必要がある | 3 | (75.0) |
| | | その他 | 0 | (0.0) |
| 実施主体 | 12 | 大学全体として実施 | 2 | (16.7) |
| | | 学部として実施 | 3 | (25.0) |
| | | 学科として実施 | 6 | (50.0) |
| | | その他 | 1 | (8.3) |
| 実施者(複数回答) | 12 | 大学教員(常勤) | 12 | (100.0) |
| | | 大学教員(非常勤) | 1 | (8.3) |
| | | 外部委託 | 0 | (0.0) |
| | | その他 | 0 | (0.0) |
| 学科教員(常勤雇用)への負担の程度 | 12 | ある | 4 | (33.3) |
| | | ややある | 7 | (58.3) |
| | | あまりない | 1 | (8.3) |
| | | ない | 0 | (0.0) |
| 実施期間 | 12 | 1か月以内 | 1 | (8.3) |
| | | 1~3か月以内 | 5 | (41.7) |
| | | 3~6か月以内 | 5 | (41.7) |
| | | 6か月以上 | 1 | (8.3) |
| 教育媒体(複数回答) | 12 | 紙媒体の教材(印刷物、ドリルなど) | 10 | (83.3) |
| | | デジタル教材(DVD、eラーニングなど) | 0 | (0.0) |
| | | その他 | 2 | (16.7) |
| 成果の確認方法(複数回答) | 12 | 定期試験 | 8 | (66.7) |
| | | 確認テスト | 5 | (41.7) |
| | | 課題提出(レポート等) | 4 | (33.3) |
| | | その他 | 0 | (0.0) |
| | | 実施していない | 1 | (8.3) |
| 担当者間の連携 | 12 | 年1回 | 1 | (8.3) |
| | | 年2回 | 3 | (25.0) |
| | | 年3回以上 | 0 | (0.0) |
| | | ほとんど行わない | 8 | (66.7) |
| 理科の入学後教育は必要であると思うか | 16 | 思う | 7 | (43.8) |
| | | やや思う | 5 | (31.3) |
| | | あまり思わない | 2 | (12.5) |
| | | 思わない | 2 | (12.5) |

表 5-3 入学後教育の実施状況(私立)

| 項目 | n | 選択肢 | n | (%) |
|--------------------|----|----------------------|----|--------|
| 化学の実施状況 | 70 | 必修科目として実施している | 38 | (54.3) |
| | | 選択必修科目として実施している | 8 | (11.4) |
| | | 選択科目として実施している | 14 | (20.0) |
| | | 補習として実施している | 5 | (7.1) |
| | | 自主学習を促す指導のみ実施している | 1 | (1.4) |
| | | 実施していない | 4 | (5.7) |
| 生物の実施状況 | 70 | 必修科目として実施している | 27 | (38.6) |
| | | 選択必修科目として実施している | 11 | (15.7) |
| | | 選択科目として実施している | 18 | (25.7) |
| | | 補習として実施している | 3 | (4.3) |
| | | 自主学習を促す指導のみ実施している | 3 | (4.3) |
| | | 実施していない | 8 | (11.4) |
| 実施している理由(複数回答) | 65 | 大学での専門教育の導入準備 | 60 | (92.3) |
| | | 高等学校までの基礎学力の補完 | 49 | (75.4) |
| | | その他 | 0 | (0.0) |
| 実施していない理由(複数回答) | 5 | 時間割に余裕がない | 3 | (60.0) |
| | | 担当する教員が足りない | 3 | (60.0) |
| | | 実施する必要がある | 0 | (0.0) |
| | | その他 | 1 | (20.0) |
| 実施主体 | 65 | 大学全体として実施 | 10 | (15.4) |
| | | 学部として実施 | 10 | (15.4) |
| | | 学科として実施 | 44 | (67.7) |
| | | その他 | 1 | (1.5) |
| 実施者(複数回答) | 65 | 大学教員(常勤) | 54 | (83.1) |
| | | 大学教員(非常勤) | 22 | (33.9) |
| | | 外部委託 | 3 | (4.6) |
| | | その他 | 3 | (4.6) |
| 学科教員(常勤雇用)への負担の程度 | 65 | ある | 21 | (32.3) |
| | | ややある | 24 | (36.9) |
| | | あまりない | 15 | (23.1) |
| | | ない | 5 | (7.7) |
| 実施期間 | 65 | 1か月以内 | 1 | (1.5) |
| | | 1~3か月以内 | 8 | (12.3) |
| | | 3~6か月以内 | 47 | (72.3) |
| | | 6か月以上 | 9 | (13.9) |
| 教育媒体(複数回答) | 65 | 紙媒体の教材(印刷物、ドリルなど) | 52 | (80.0) |
| | | デジタル教材(DVD、eラーニングなど) | 12 | (18.5) |
| | | その他 | 11 | (16.9) |
| 成果の確認方法(複数回答) | 65 | 定期試験 | 53 | (81.5) |
| | | 確認テスト | 19 | (29.2) |
| | | 課題提出(レポート等) | 12 | (18.5) |
| | | その他 | 2 | (3.1) |
| | | 実施していない | 2 | (3.1) |
| 担当者間の連携 | 65 | 年1回 | 16 | (24.6) |
| | | 年2回 | 4 | (6.2) |
| | | 年3回以上 | 26 | (40.0) |
| | | ほとんど行わない | 19 | (29.2) |
| 理科の入学後教育は必要であると思うか | 70 | 思う | 59 | (84.3) |
| | | やや思う | 9 | (12.9) |
| | | あまり思わない | 2 | (2.9) |
| | | 思わない | 0 | (0.0) |

表6 入学前・入学後教育を実施することによる専門基礎分野の理解度・学力向上に関する質問に係る回答状況(専門基礎分野の分野別)

| 項目 | 選択肢 | n | (%) |
|-------------------|---------|----|--------|
| 社会・環境と健康 | 思う | 13 | (19.4) |
| | やや思う | 19 | (28.4) |
| | あまり思わない | 11 | (16.4) |
| | 思わない | 7 | (10.4) |
| | わからない | 17 | (25.4) |
| 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち | 思う | 38 | (54.3) |
| | やや思う | 18 | (25.7) |
| | あまり思わない | 3 | (4.3) |
| | 思わない | 1 | (1.4) |
| | わからない | 10 | (14.3) |
| 食べ物と健康 | 思う | 34 | (49.3) |
| | やや思う | 20 | (29.0) |
| | あまり思わない | 3 | (4.3) |
| | 思わない | 1 | (1.4) |
| | わからない | 11 | (15.9) |

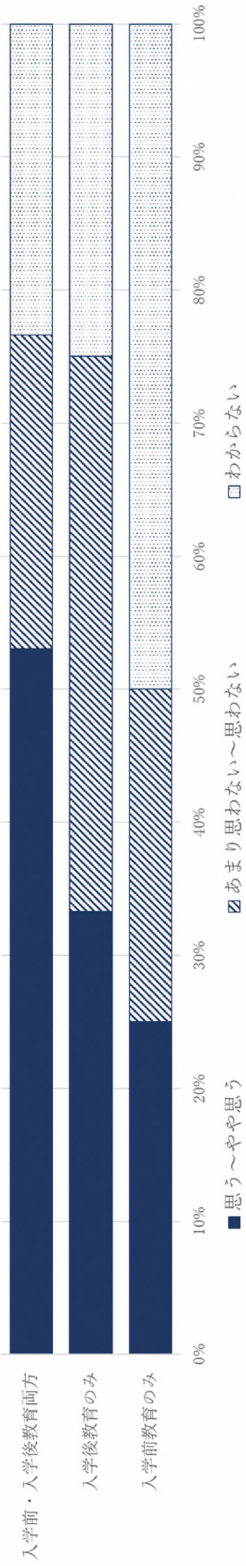
各項目について、質問文「[社会・環境と健康] 分野の理解度・学力向上のために、入学前・入学後教育を実施してよかったか」と、質問文「[人体の構造と機能及び疾病の成り立ち] 分野の理解度・学力向上のために、入学前・入学後教育を実施してよかったか」と、質問文「[食べ物と健康] 分野の理解度・学力向上のために、入学前・入学後教育を実施してよかったか」とそれぞれ対して、選択肢「思う」、「あまり思わない」、「やや思う」、「思う」、「わからない」のいずれかに回答。

表 7 入学前・入学後教育を実施することによる専門基礎分野の理解度・学力向上に関する質問に係る回答状況(専門基礎分野の分野別・入学前教育のみ,入学後教育のみ,入学前・入学後教育両方の実施別)

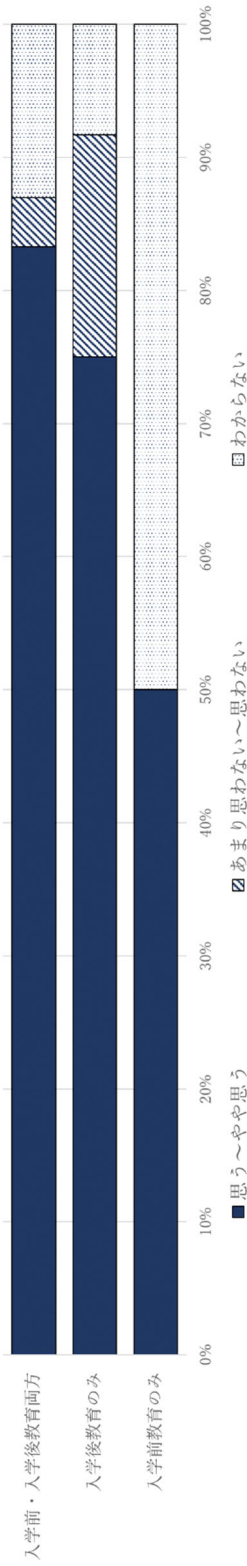
| 項目 | n | カテゴリー | 入学前教育のみ | | 入学後教育のみ | | 入学前・入学後教育両方 | |
|-------------------|----|--------------|---------|--------|---------|--------|-------------|--------|
| | | | n | (%) | n | (%) | n | (%) |
| 社会・環境と健康 | 67 | 思う～やや思う | 1 | (25.0) | 4 | (33.3) | 27 | (52.9) |
| | | あまり思わない～思わない | 1 | (25.0) | 5 | (41.7) | 12 | (23.5) |
| | | わからない | 2 | (50.0) | 3 | (25.0) | 12 | (23.5) |
| 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち | 70 | 思う～やや思う | 2 | (50.0) | 9 | (75.0) | 45 | (83.3) |
| | | あまり思わない～思わない | 0 | (0.0) | 2 | (16.7) | 2 | (3.7) |
| | | わからない | 2 | (50.0) | 1 | (8.3) | 7 | (13.0) |
| 食べ物と健康 | 69 | 思う～やや思う | 2 | (50.0) | 10 | (83.3) | 42 | (79.2) |
| | | あまり思わない～思わない | 0 | (0.0) | 1 | (8.3) | 3 | (5.7) |
| | | わからない | 2 | (50.0) | 1 | (8.3) | 8 | (15.1) |

各項目について、質問文「社会・環境と健康」分野の理解度・学力向上のために、入学前・入学後教育を実施してよかったですか、「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」分野の理解度・学力向上のために、入学前・入学後教育を実施してよかったですか、「食べ物と健康」分野の理解度・学力向上のために、入学前・入学後教育を実施してよかったですか、「あまり思わない」、「やや思う」、「思う」、「わからない」のいずれかに回答。「思う」または「やや思う」と回答した大学を「思う～やや思う」とカテゴリ化、「あまり思わない」と回答した大学を「あまり思わない～思わない」とカテゴリ化した。

社会・環境と健康



人体の構造と機能及び疾病の成り立ち



食べ物と健康

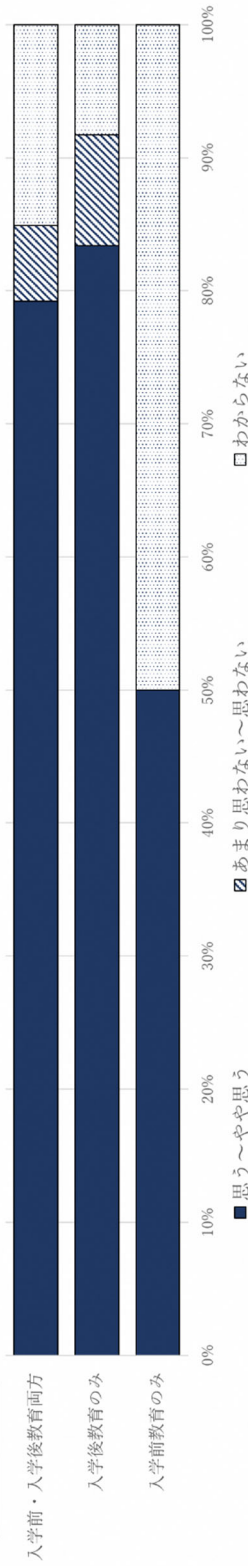


図1 入学前・入学後教育を実施することによる専門基礎分野の理解度・学力向上に関する質問に係る回答状況 (専門基礎分野の分野別・入学前教育のみ, 入学後教育のみ, 入学前・入学後教育両方の実施別)

表 8-1 プレースメントテストの実施状況

| 項目 | <i>n</i> | カテゴリー | <i>n</i> | (%) |
|---------------------------|----------|-------------|----------|--------|
| プレースメントテストの実施科目 (複数回答) | 86 | 化学基礎 | 21 | (24.4) |
| | | 生物基礎 | 15 | (17.4) |
| | | 化学 | 19 | (22.1) |
| | | 生物 | 11 | (12.8) |
| | | その他 | 24 | (27.9) |
| | | 実施していない | 39 | (45.3) |
| 実施している理由 (複数回答) | 47 | 学力を測るため | 33 | (70.2) |
| | | クラス分けをするため | 20 | (42.6) |
| | | 履修指導に活用するため | 19 | (40.4) |
| | | その他 | 3 | (6.4) |
| 実施していない理由 (複数回答) | 39 | 時間割に余裕がない | 15 | (38.5) |
| | | 担当する教員が足りない | 12 | (30.8) |
| | | 実施する必要がある | 19 | (48.7) |
| | | その他 | 5 | (12.8) |

表 8-2 プレースメントテストの実施状況(国公立)

| 項目 | <i>n</i> | カテゴリー | <i>n</i> | (%) |
|---------------------------|----------|-------------|----------|--------|
| プレースメントテストの実施科目 (複数回答) | 16 | 化学基礎 | 1 | (6.3) |
| | | 生物基礎 | 1 | (6.3) |
| | | 化学 | 1 | (6.3) |
| | | 生物 | 1 | (6.3) |
| | | その他 | 2 | (12.5) |
| | | 実施していない | 13 | (81.3) |
| 実施している理由 (複数回答) | 3 | 学力を測るため | 2 | (66.7) |
| | | クラス分けをするため | 2 | (66.7) |
| | | 履修指導に活用するため | 0 | (0.0) |
| | | その他 | 0 | (0.0) |
| 実施していない理由 (複数回答) | 13 | 時間割に余裕がない | 4 | (30.8) |
| | | 担当する教員が足りない | 3 | (23.1) |
| | | 実施する必要がある | 10 | (76.9) |
| | | その他 | 0 | (0.0) |

表 8-3 プレースメントテストの実施状況(私立)

| 項目 | <i>n</i> | カテゴリー | <i>n</i> | (%) |
|---------------------------|----------|-------------|----------|--------|
| プレースメントテストの実施科目 (複数回答) | 70 | 化学基礎 | 20 | (28.6) |
| | | 生物基礎 | 14 | (20.0) |
| | | 化学 | 18 | (25.7) |
| | | 生物 | 10 | (14.3) |
| | | その他 | 22 | (31.4) |
| | | 実施していない | 26 | (37.1) |
| 実施している理由 (複数回答) | 44 | 学力を測るため | 31 | (70.5) |
| | | クラス分けをするため | 18 | (40.9) |
| | | 履修指導に活用するため | 19 | (43.2) |
| | | その他 | 3 | (6.8) |
| 実施していない理由 (複数回答) | 26 | 時間割に余裕がない | 11 | (42.3) |
| | | 担当する教員が足りない | 9 | (34.6) |
| | | 実施する必要がある | 9 | (34.6) |
| | | その他 | 5 | (19.2) |